



味の素株式会社
(2802 : 東証プライム市場)

個人投資家様向け 会社説明会

IR室
飯村 新人
2026年8月19日



- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。

大阪における味の素グループの最近の取り組み

食いだおれの街・大阪から、“うま味”をリアルで発信しています！

大阪・関西万博 大阪府イベントやグルメEXPO で発信

食のDEMO LIVE in 大阪ヘルスケアパビリオン

- ・オリジナルメニュー
「たこ焼き風ライス
ボール」を開発
- ・会場で試食と
「うま味」のミニ講義



「AJINOMOTOギョーザ」グルメEXPO

- ・大阪万博に合わせ、大阪
城公園で体験型店舗
「ギョーザステーション」
を出店
- ・国内外の来店者に、自ら
焼いて味わうギョーザ体験
を提供



ギョーザステーション
(大阪城公園・太陽の広場)

株主様向け 大阪支社 リアル新製品説明会

- ・3年連続で株主様向け
新製品説明会をリアル開催
- ・今年の応募倍率はなんと**26倍！**
- ・試食体験を通じて、新製品の価値を
体感いただく場を創出



質疑応答の様子（味の素(株)大阪支社）

1 味の素グループ概要

2 中長期の成長戦略

3 2027年3月期 業績動向

4 株主還元・株主優待

*本資料における事業利益（連結ベース）：

売上高－売上原価－販売費・研究開発費及び一般管理費＋持分法による損益

数字で見る味の素グループ

事業展開

40の国・地域で
121法人

創業年

歴史が築いたブランド力

1909年

生産工場数

グローバルな生産体制

126工場

従業員数

さまざまな人が支える味の素グループ

34,787人

研究開発要員

味の素独自の先端技術力

1,700人以上

2026年3月末時点

1909年、昆布だしに含まれる**アミノ酸**（**うま味成分**）から「味の素®」を商品化

創業の志

食を通じた社会への貢献

うま味を通じて日本人の栄養を改善したい



初代「味の素®」

現在



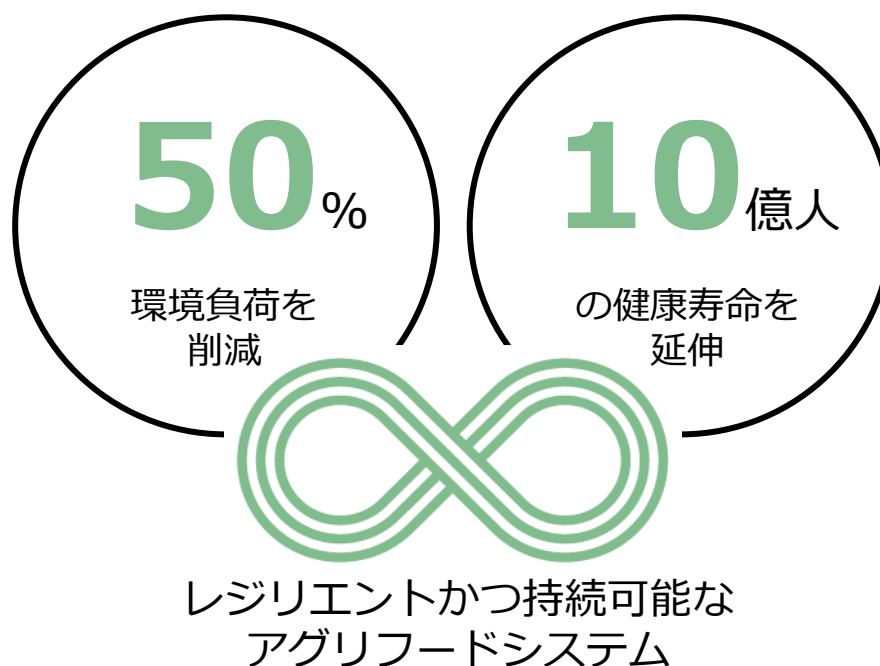
味の素グループ創業者
二代 鈴木 三郎助

事業を通じた社会課題の解決による
社会貢献と経済価値の創出

ASV (Ajinomoto Group Creating Shared Value)

「うま味」の発見者
池田 菊苗
(東京帝国大学 教授)

アミノサイエンス®で、人・社会・地球のWell-beingに貢献する



アミノサイエンス®とは

アミノサイエンス®とは、アミノ酸のはたらきに徹底的にこだわった研究プロセスや実装化プロセスから得られる多様な素材・機能・技術・サービスの総称。また、それらを社会課題の解決やWell-beingの貢献につなげる、味の素グループ独自の科学的アプローチ。

アミノ酸



価値の創出

たんぱく質を構成する成分

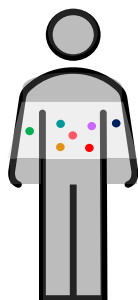
すべての生きもののカラダをつくる基本物質。カラダのさまざまな機能を担う。

脂質
15%

たんぱく質
20%

水分
60%

糖質/その他
5%



アミノ酸のはたらき

呈味機能

おいしくする

生理機能

体の調子を整える

栄養機能

栄養を届ける

反応性

新たな機能を生み出す

味の素グループの事業活動

食品事業

アミノサイエンス®を
調味料・食品、冷凍食品に
活かした事業展開

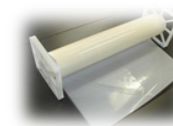
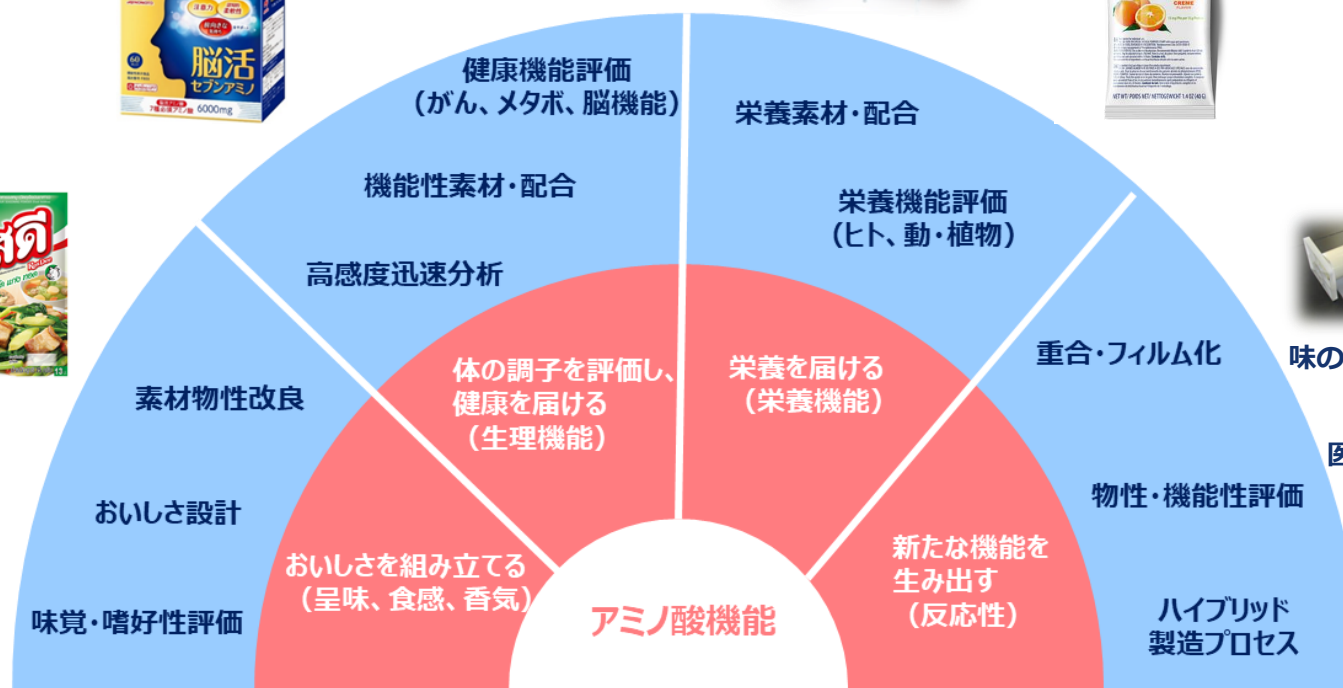
バイオ&ファインケミカル 事業

アミノサイエンス®を
ヘルスケア等に活かした事業

アミノサイエンス®をベースとする事業展開

医薬用・食品用アミノ酸

アミノ酸を測る。今のからだを知る。
aminoindex®
アミノインデックス。



味の素ビルドアップフィルム®
(電子材料事業)

医薬品開発製造受託サービス
(CDMO)

AJICAP™

AJIPHASE®

プラットフォーム技術

分析

品質保証

酵素改変

微生物育種

単離・精製

化学合成

製造
スケールアップ

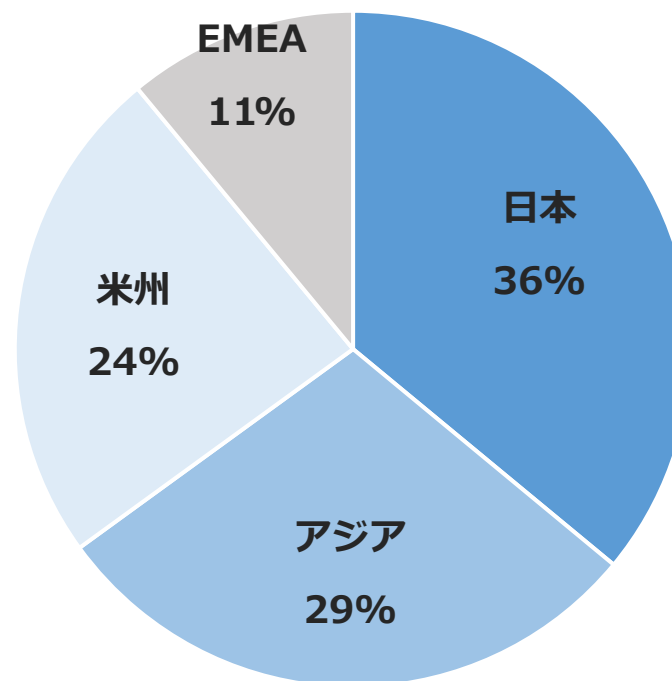
造粒・加工

事業別/エリア別 売上高

売上高：15,837億円（FY25実績）



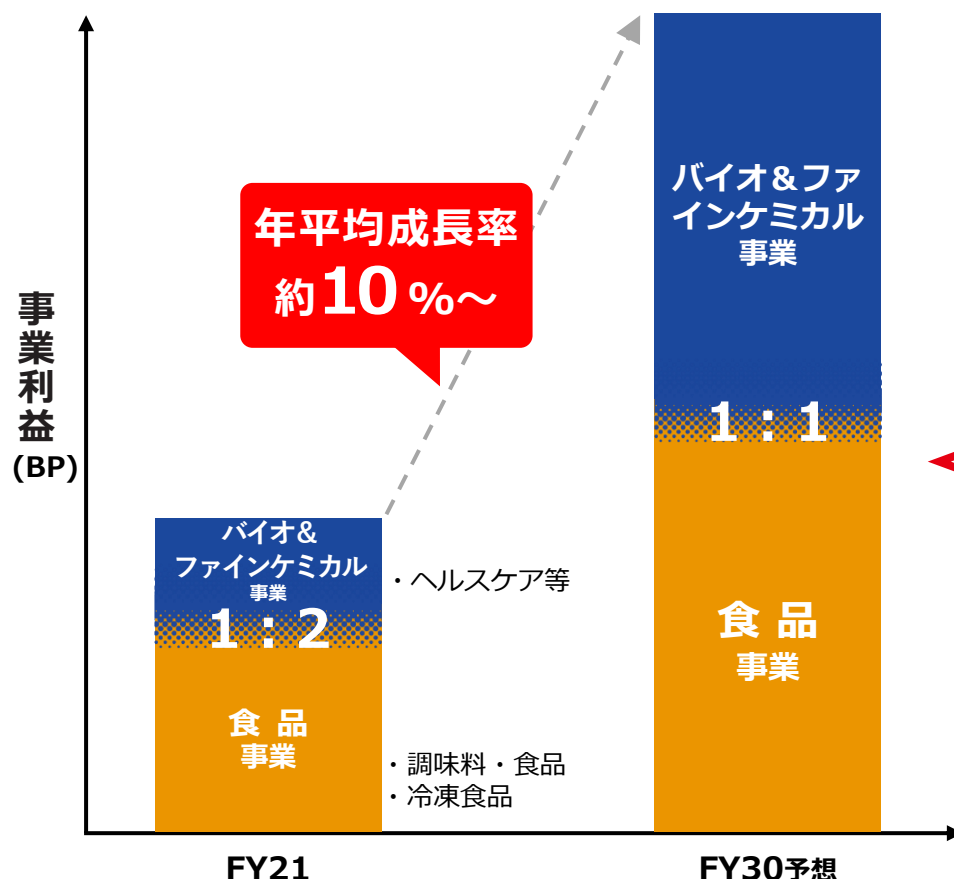
<事業別>



<エリア別>

構造改革から成長へのシフト

味の素グループは、食品事業を持続的に成長させながら、バイオ&ファインケミカル事業を飛躍的に伸ばし、高収益かつユニークで強固な構造へシフトする。



4つの重点成長領域

ヘルスケア

ICT

フード&ウェルネス

グリーン

「2030年ありたい姿」

アミノサイエンス®で人・社会・地球の
Well-beingに貢献する

① 飛躍的成長の実現
BP 10%超の成長
(FY21-30
年平均成長率)

② 強固な事業基盤
ROIC 約17%

③ トコトン本気でASV
2030年までに、
10億人の健康寿命延伸
環境負荷50%削減
↓
2050年には
カーボンニュートラル

2030ロードマップ ASV指標

2030年に向けた挑戦的なASV指標を掲げている。従業員一人ひとりが挑戦を続けることで、企業価値を継続的に向上させる。

FY23 FY24 FY25 FY26 業績予想 FY30計画

【参考】
EPS 約3倍
(FY22対比) を目指す

ASV指標

経済価値指標	ROE (Forge社買収影響除く) (Forge社買収影響+特殊要因*除く)	11.0% (11.4%)	9.0% (11.3%) (14.7%)	17.7% (21.4%) (17.7%)	約15% (約18%)	約20%
	ROIC (>資本コスト) (Forge社買収影響除く) (Forge社買収影響+特殊要因*除く)	8.7% (9.4%)	6.7% (7.8%) (9.8%)	11.8% (13.3%) (11.2%)	約11% (約12%)	約17%
	オーガニック成長率	1.7%	3.7%	3.7%	約10%	5%~ (FY26-30)
	EBITDAマージン	15.7%	16.1%	17.1%	約17%	19%
社会価値指標	環境負荷削減の取組み	▲35% CO2排出量 (Scope1,2)	▲43% CO2排出量 (Scope1,2)	-	-	環境負荷 50%削減 (アウトカム)
	栄養コミットメント 栄養以外の貢献についての指標も 今後検討予定	9.4億人	9.5億人	-	-	10億人の 健康寿命延伸 (アウトカム)
無形資産強化	従業員エンゲージメントスコア	76%	76%	78%	84%**	88%**~
	コーポレートブランド価値 (mUSD、Interbrand社公表値)	1,625 (実績 前年比 +17%)	1,972 (実績 前年比 +21%)	2,425 (実績 前年比 +23%)	-	FY22比、 CAGR 7%~

経営が示す挑戦的目標

ASVが
飛躍的・継続的に向上し、
ステークホルダー・
社会にとって
魅力的な企業で
あり続ける

*特殊要因：固定資産売却益・減損等
**生産性向上の設問を、新設問「意思決定における不必要な承認は最小限に抑えられているか」に変更し、FY26を設定。FY30の目標を修正。

1 味の素グループ概要

2 中長期の成長戦略

① 食品事業

② ファンクショナルマテリアルズ事業（電子材料等）

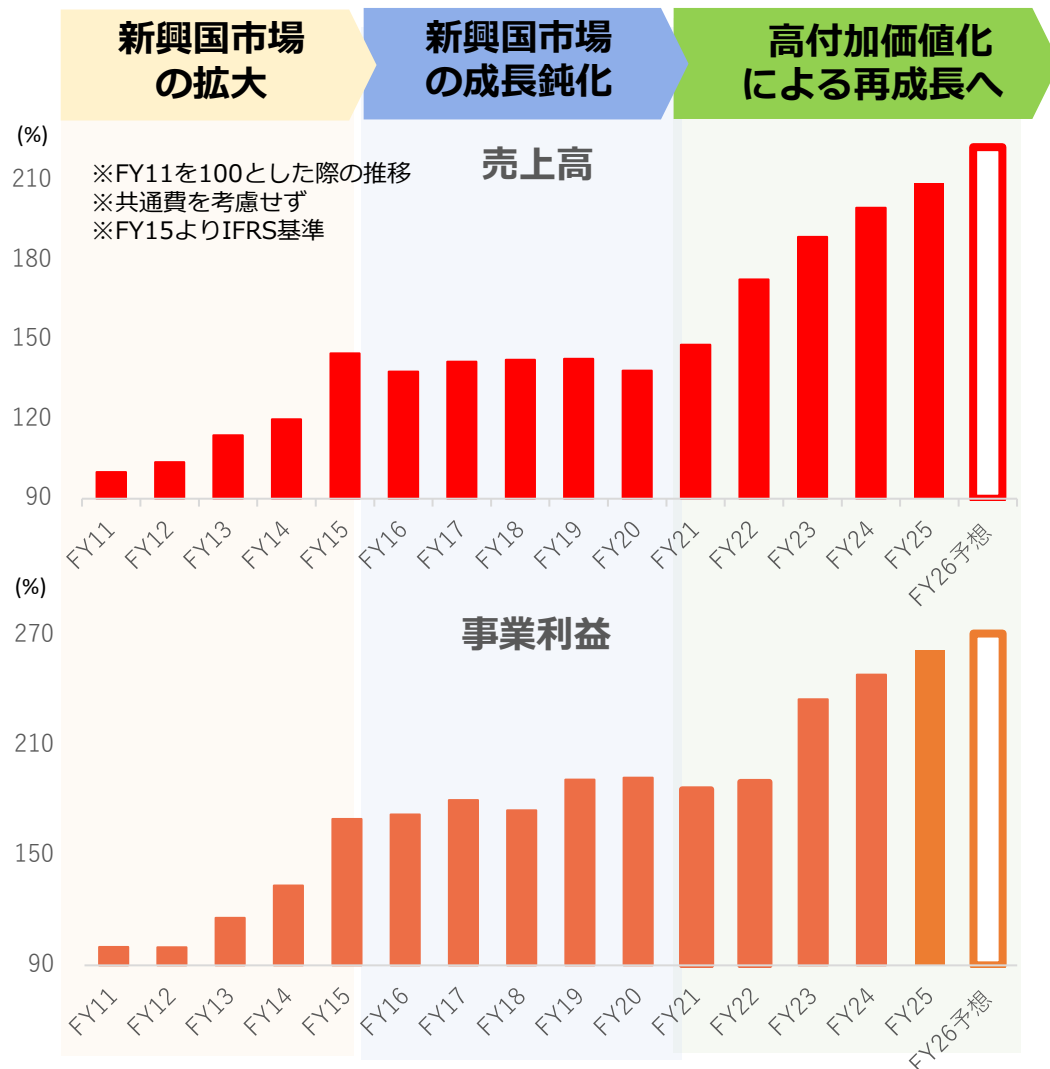
③ CDMO事業

3 2027年3月期 業績動向

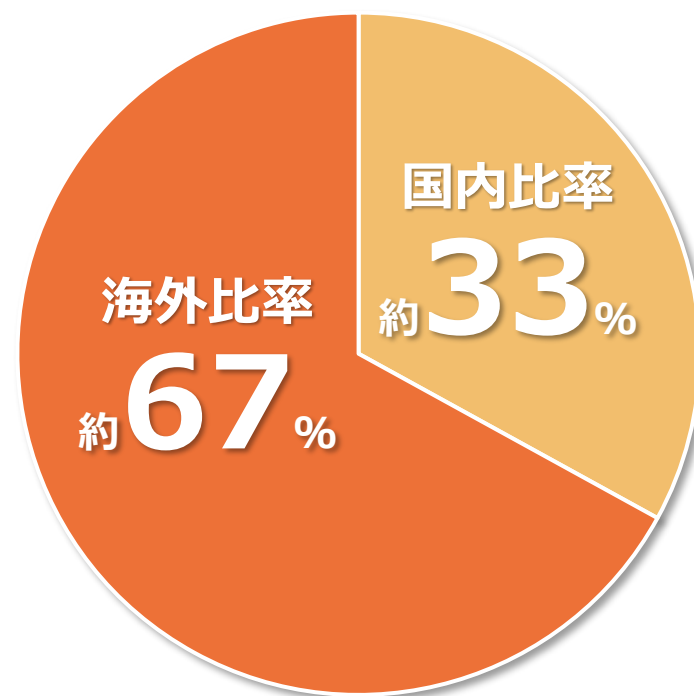
4 株主還元・株主優待

成長戦略①-1 食品事業（調味料・食品）

調味料・食品の売上高比率は、国内約3割、海外約7割。グローバルでは、東南アジア、ラテンアメリカなどを中心に、調味料や加工食品などの様々な製品を展開。



＜調味料・食品:売上高＞
FY25実績：9,369億円



成長戦略①-1 食品事業（調味料・食品）



日本に加え、アセアン諸国やブラジルなどで**高いプレゼンス**を有している。

ベトナム

うま味調味料



約**60%**

日本



96% **58%** **78%**

タイ

うま味調味料 風味調味料 RTDコーヒー



約**90%** 約**80%** 約**50%**

インドネシア

うま味調味料 風味調味料



約**40%** 約**50%**

フィリピン

うま味調味料



約**100%**

**当社推定シェア
25年度実績**

ブラジル

風味調味料



約**70%**

成長戦略①-1 食品事業:更なる事業拡大に向けた戦略

食文化に適合した製品強化、減塩などの高付加価値品など、製品領域を拡大。
更に周辺国への事業展開にも注力。

FY26予想オーガニック成長率7%

減塩タイプ、
健康価値
付加製品



付加価値
の向上



メニュー用
調味料



風味調味料



うま味調味料



日本

タイ

インドネシア

ベトナム

フィリピン

ブラジル

その他展開国

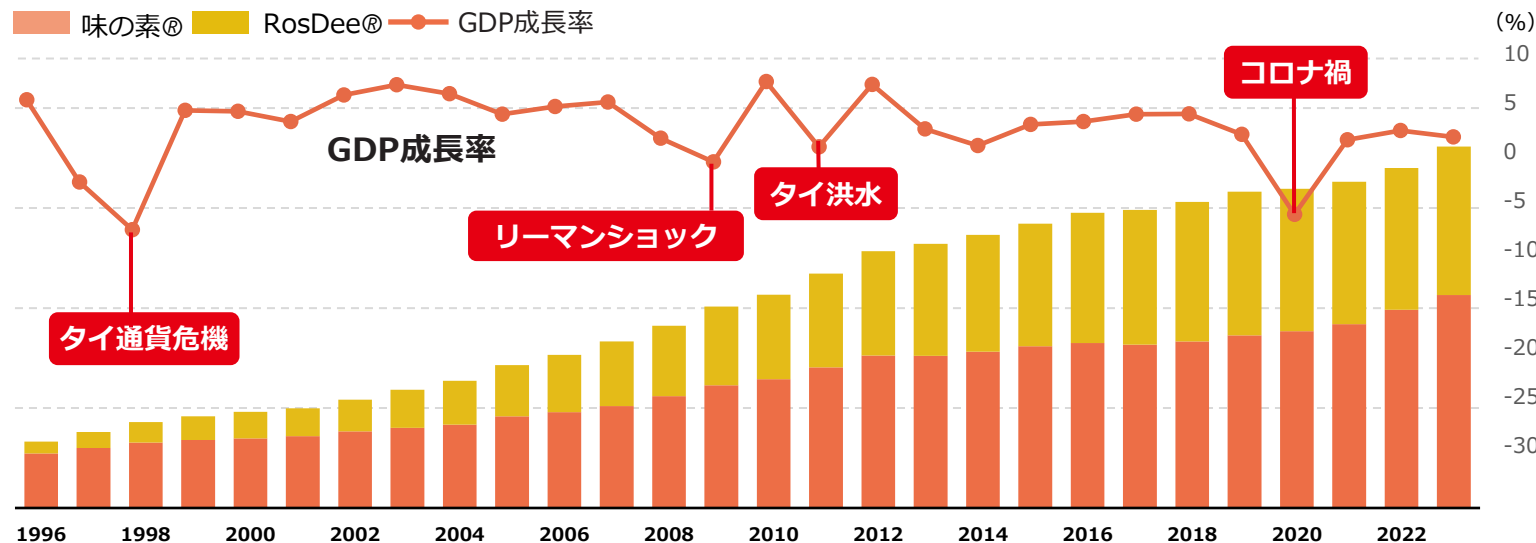
展開国

成長戦略①-1

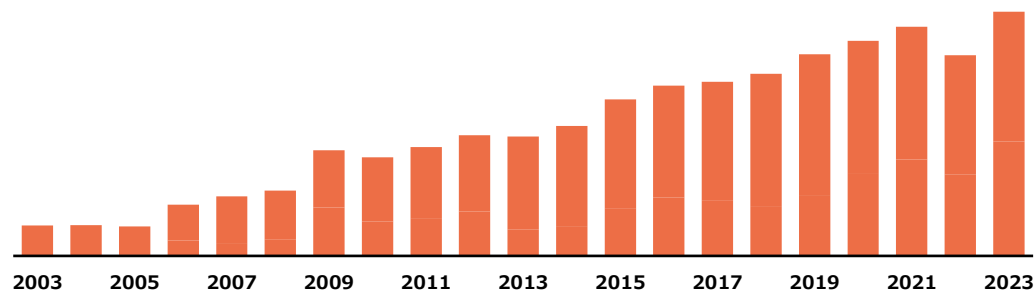
食品事業:景気に左右されにくい、うま味調味料・風味調味料



タイGDP推移とタイ国内の「味の素®」「RosDee®」（風味調味料）販売推移（THB）



「味の素®」「RosDee®」（風味調味料）事業利益推移（THB）



成長戦略①-1

食品事業:マーケティングの高度化による成長ドライブ

国内でも、「打席に立ち、バットを振る」ことを重視した、新たな価値創出を図っている。
CookDo®極シリーズは、データ分析でニーズを深掘りして、誕生した商品。

<従来の課題>

- ・ニーズの多様化
- ・マスマーケティングだけでは不十分

企業文化の変革

「打席に立ち、バットを振る」

従業員の挑戦を促し、データ分析にもとづく
お客様起点で独自性のある新たな価値を創出

好評により、
追加品種発売

事例

生活者解析から「狭く・深い」ニーズを発見

「Cook Do®」
＜極 麻辣麻婆豆腐用＞



- ・従来の「家族みんなで食べられる本格中華」
➡「高級四川料理」の味に
- ・既存品と比較し、**男性・若年層からも購入**
本製品が「Cook Do®」初購入の方も多い



26年8月発売

成長戦略①

食品事業:マーケティングの高度化による成長ドライブ

冷凍食品事業を持つからこそその発想で、「つゆを凍らせる」という新しい領域の開拓に積極的に挑戦。



<かつおだし>



<鶏だしゆず風味>

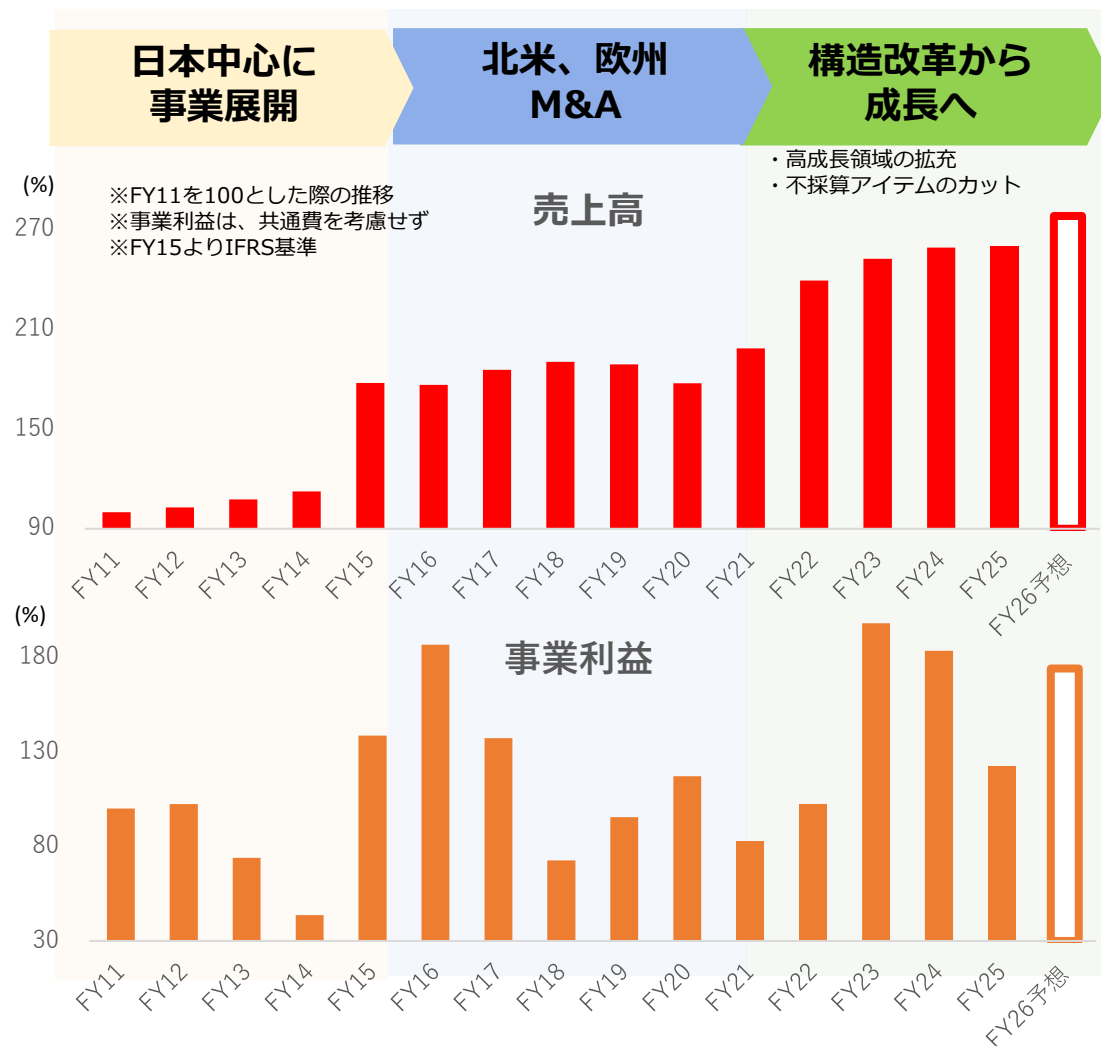
積極的な挑戦

『氷みぞれつゆ』 – 冷凍食品事業で培った技術を活かし、「つゆを凍らせる」という発想転換で、新しい喫食シーン・領域へ挑戦

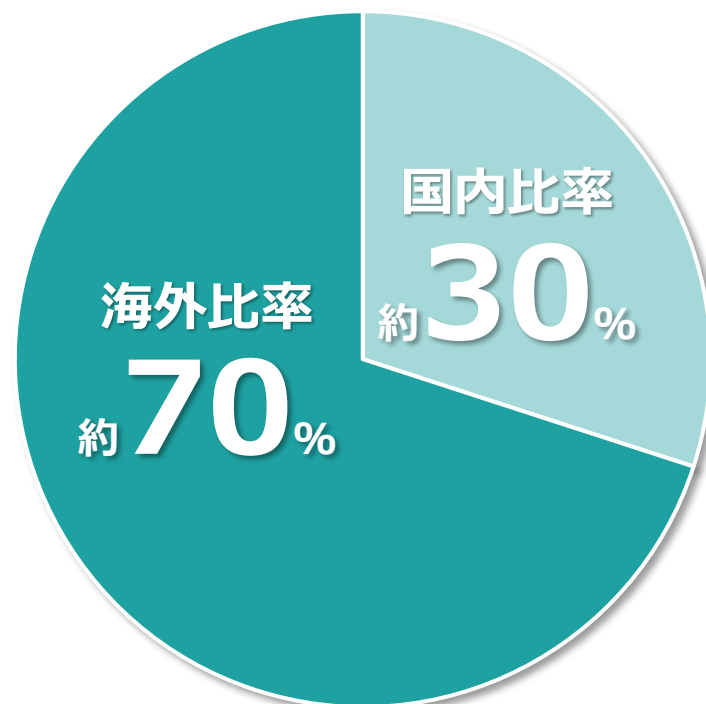
成長戦略①-2

食品事業:冷凍食品事業の戦略

- ・ 冷凍食品の売上高比率は国内約3割、海外約7割。
- ・ 海外:成長が見込まれるアジアン市場を中心に、販売を伸ばす。



＜冷凍食品:売上高＞
2,903億円（FY25実績）



成長戦略①-2 食品事業:冷凍食品事業の戦略

国内

主力品「ギョーザ」



「ザ★」ブランド



機能価値訴求 (電子レンジ対応)



業務用冷凍ケーキ



海外



北米：餃子



北米
フライドライス



欧州
餃子



欧州
マカロン



日本の知見を活かした
日式羽根つきGyozaを展開

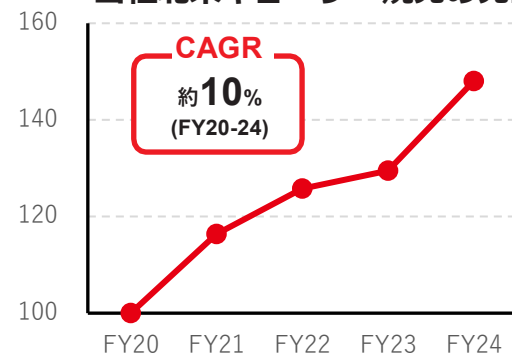


<北米アジア領域の成長>

- ・北米のアジアン市場は、冷凍食品市場全体に占める割合がまだ低く、**ポテンシャル高**。
- ・**当社北米アジア製品の売上伸長が高い。**

FY2020=100

当社北米ギョーザ・焼売の売上



成長戦略②

ファンクショナルマテリアルズ- 味の素ビルドアップフィルム® (ABF®)

ABF®は、1999年に発売した世界初のフィルム状のパッケージ基板用絶縁材料。
シェア95%以上！ サーバーやPCを始め、様々な機器の半導体にABF®が使用されている。



味の素ビルドアップフィルム® (ABF®)

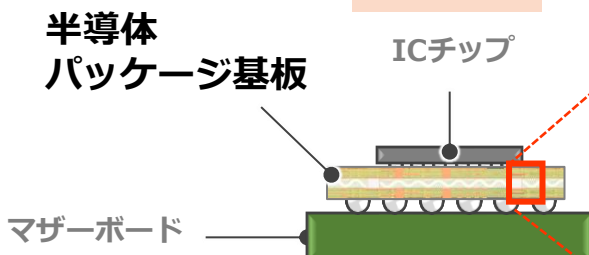


半導体パッケージ
(CPUなど)

<図②>

半導体パッケージ 断面イメージ

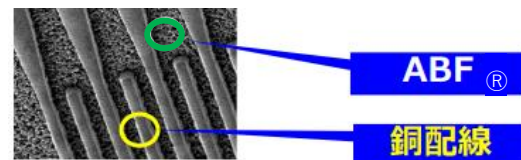
<図①>



層間絶縁材料ABF®
(絵の黄色部分がABF®)

銅配線
(オレンジ部分)

ABF®の上には、最先端の基板に必要な細かい銅配線を形成可能
→最先端の電子回路にも適応できる

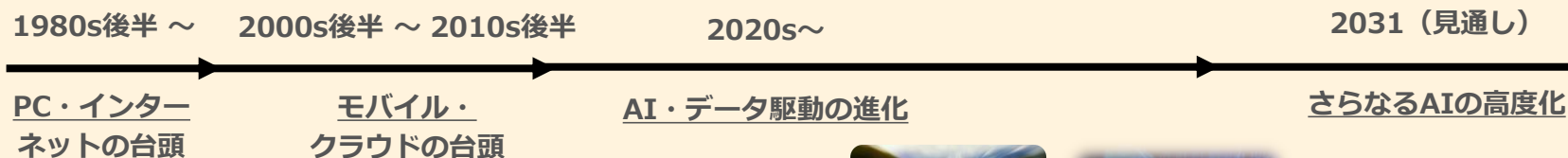


10um

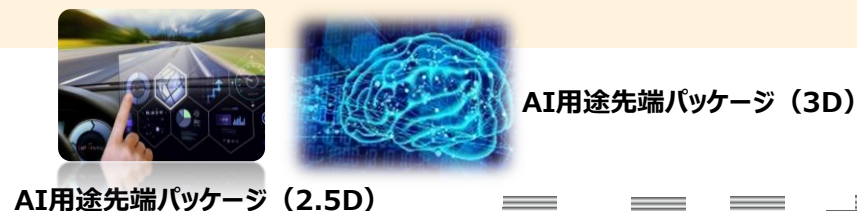
※髪の毛の太さが100um

ICT業界における技術の進化に伴い、半導体の大型化・高集積化が進み、パッケージ基板の大型化・多層化が進展。それに伴い、高性能半導体へのABF[®]使用量も増加している。

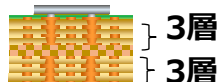
<ICT業界における進化>



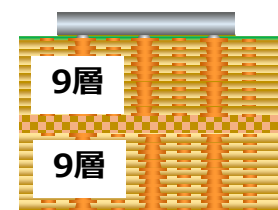
<パッケージ基板の大型化・多層化>



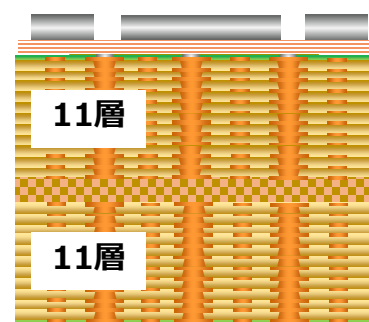
パソコン用途
(ABF[®]採用当初)



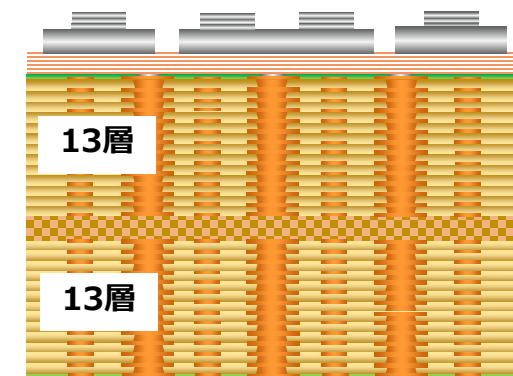
HPC用途先端パッケージ



~70mm角



~100mm角



~120mm角



AIサーバーには、高性能半導体パッケージであるCPU、GPU、ASICなどが大量に搭載。
この大型化・多層化されたパッケージ基板に、ABF®が大量に使用される構造となっている。

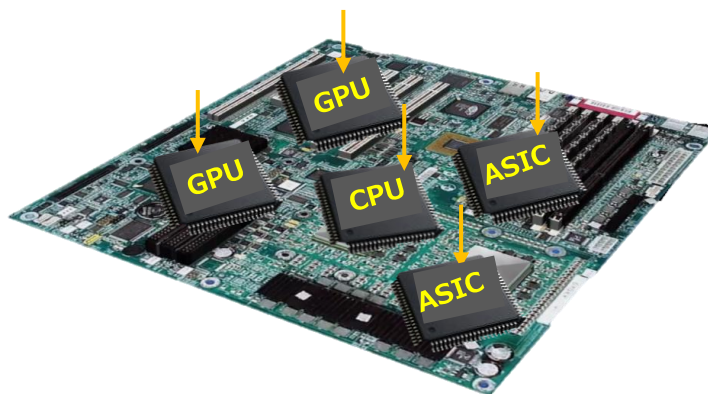
高性能半導体向けのパッケージ基板の大型化

・多層化が進展。ABF®の使用量が増加

① 複数の高性能半導体を組み合わせて
システム基板に搭載

CPU、GPU、ASICなどの半導体を実装する基板

↓ :それぞれのパッケージ基板にABF®が使用される

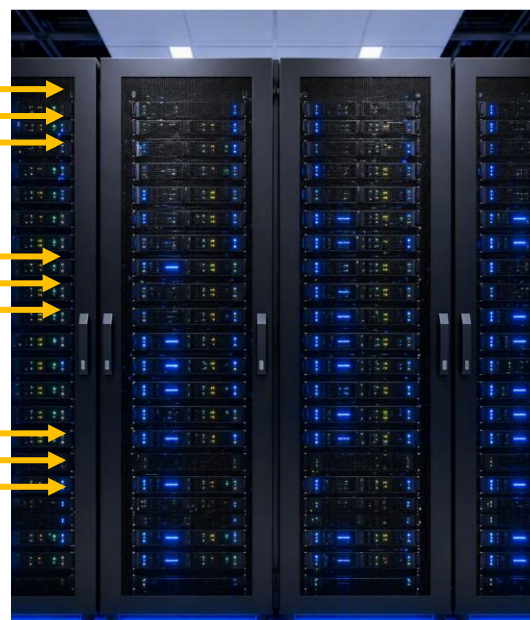


② 複数のシステム基板を組み合わせて、
高性能な「計算ユニット」を構成

複数のシステム基板やメモリ、電源などまとめて単独で計算できる状態にしたもの

③ 計算ユニットを複数組み合わせ、
AIサーバーを構成

< AIサーバー (イメージ) >



④ データセンターでは、
多数のサーバーが設置



ハイパースケール データセンター
(イメージ)

ABF®が大量に使用される

成長戦略②

ファンクショナルマテリアルズ-ABF[®]の製造拠点

現在、川崎・群馬の拠点でABF[®]向けワニスを製造。
2026年5月には、岐阜県に新工場用地の取得を発表。



群馬工場 ABF[®]量産の中核拠点。
2025年には最先端のABF[®]製造に向けた
新工場が稼働

- ◆ ワニス工場
- コーティング
- ★ 物流拠点



川崎本社工場

研究開発の中核拠点。新製品の
設計・試作。評価や小ロットの
生産を行う。



岐阜工場
(2032年稼働予定)



台湾

成長戦略②

ファンクショナルマテリアルズ-

群馬新工場（2026年6月30日 バーチャル工場見学会より）



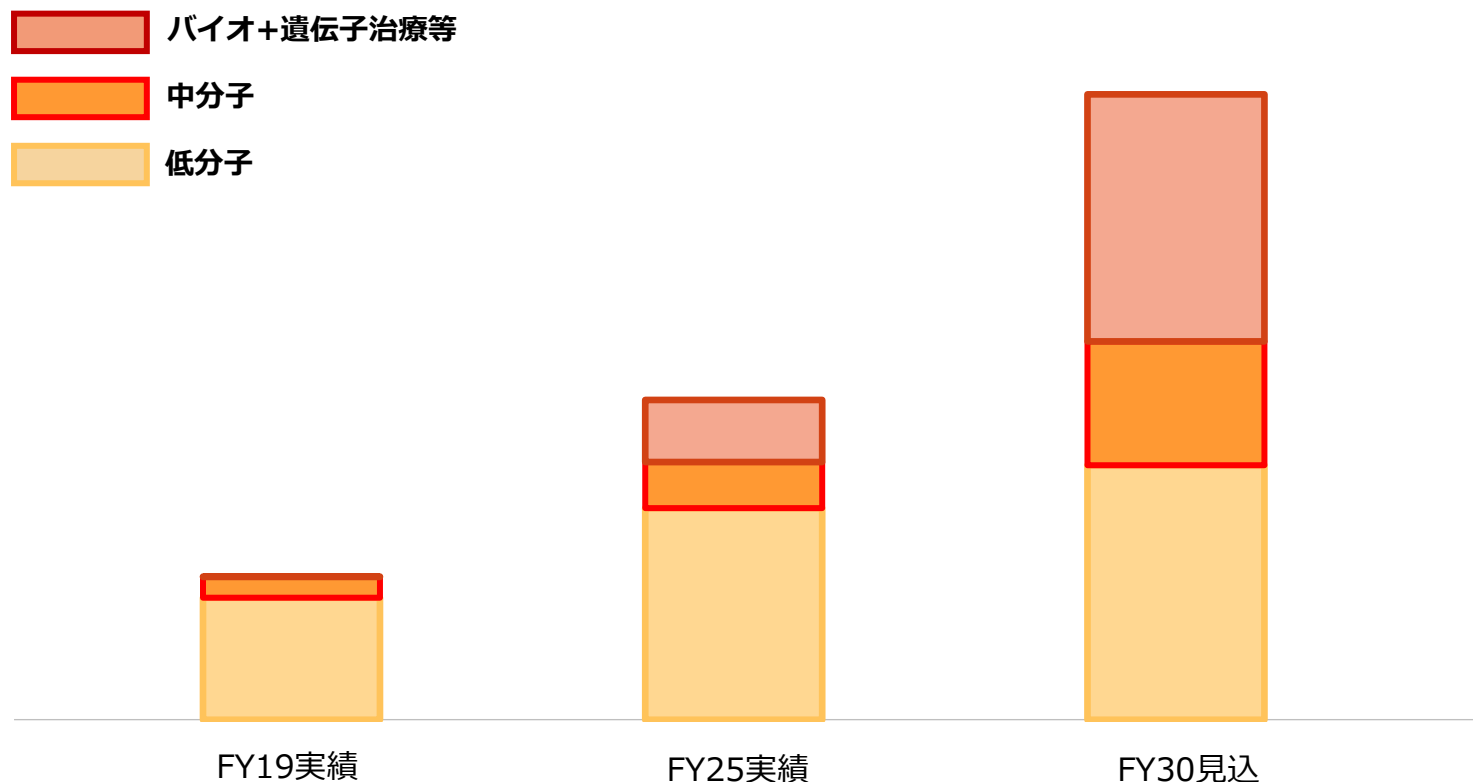
右記QRコードより、
動画をご覧くださいませ。



成長戦略③ 医薬品開発製造受託（CDMO）事業

先進医療モダリティ実現に必要な原薬需要や性能・品質、開発スピードに応える
当社独自のソリューション開発力で、バイオファーマサービス事業の成長を実現。

＜モダリティ別売上高構成比＞



- 1 味の素グループ概要
- 2 中長期の成長戦略
- 3 2027年3月期 業績動向**
- 4 株主還元・株主優待

2026年度 1Q決算ダイジェスト

FY26の1Q (4-6月)の実績は、売上高4,121億円、事業利益601億円。
売上高・事業利益・当期利益のいずれも、第一四半期としての新記録。

売上高：増収（新記録）

4,121億円

対前年実績：113%

除く為替影響：105%

事業利益：増益（新記録）

601億円

対前年実績：127%

除く為替影響：119%

親会社の所有者に帰属する
当期利益：
増益（新記録）

364 億円

対前年実績：113%

増収額：480億円

増益額：128億円

増益額：42億円

<食品事業>

- ・ 「調味料・食品」と「冷凍食品」を合わせた全体で増収・増益

<バイオ&ファインケミカル事業>

- ・ 「電子材料」大幅増収・大幅増益
- ・ 「医薬用・食品用アミノ酸」・「CDMO」とともに増収・増益

2026年度 業績予想を上方修正

2026年度 業績予想は、**増収・増益（ともに新記録更新）**を見込む。
食品事業での着実な成長、ヘルスケア等事業での飛躍的な成長を目指す。

売上高

17,320億円

対前年実績：109%

除く為替影響：109%

事業利益

2,020億円

対前年実績：111%

除く為替影響：111%

親会社の所有者に帰属する当期利益

1,235億円

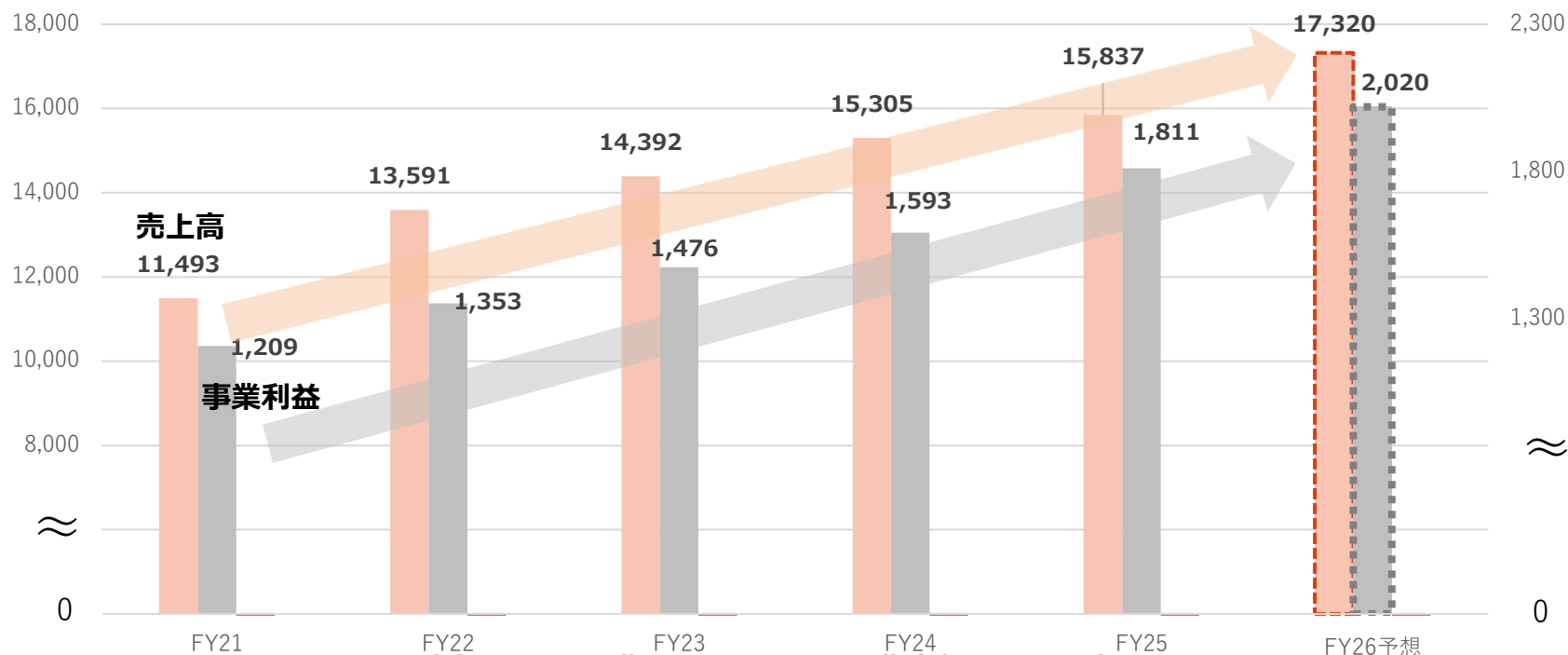
対前年実績：91%

(為替前提:150円/USD)

売上高 (億円)

最新の予想では、中東情勢緊迫化による影響を、織り込み済。

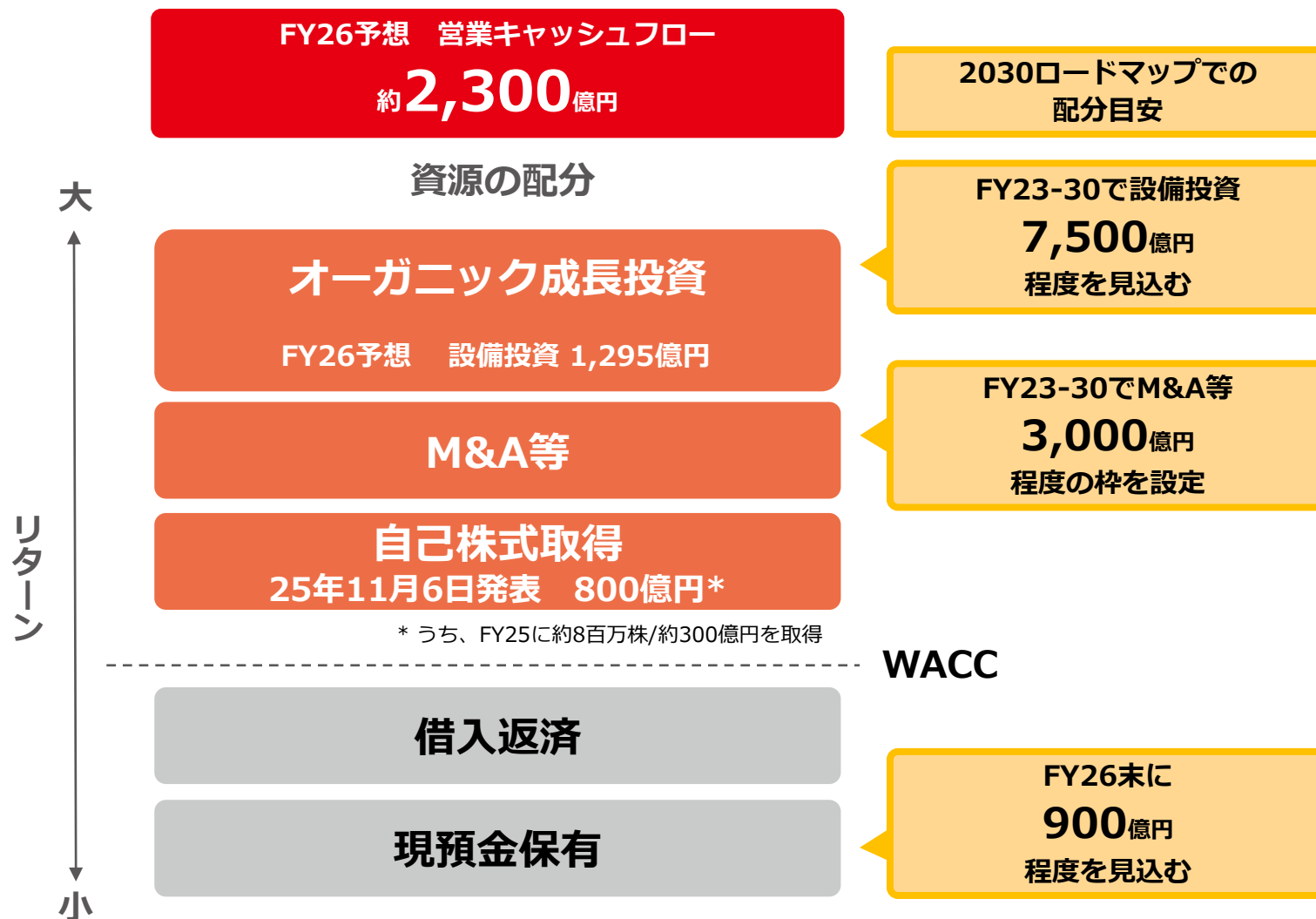
事業利益 (億円)



- 1 味の素グループ概要
- 2 中長期の成長戦略
- 3 2027年3月期 業績動向
- 4 株主還元・株主優待**

成長投資と株主還元（中期ASV経営の考え方）

持続的な事業成長をベースにキャッシュフロー創出力を強化。機動的な自己株式取得で株主還元の充実を図る。



成長投資と株主還元

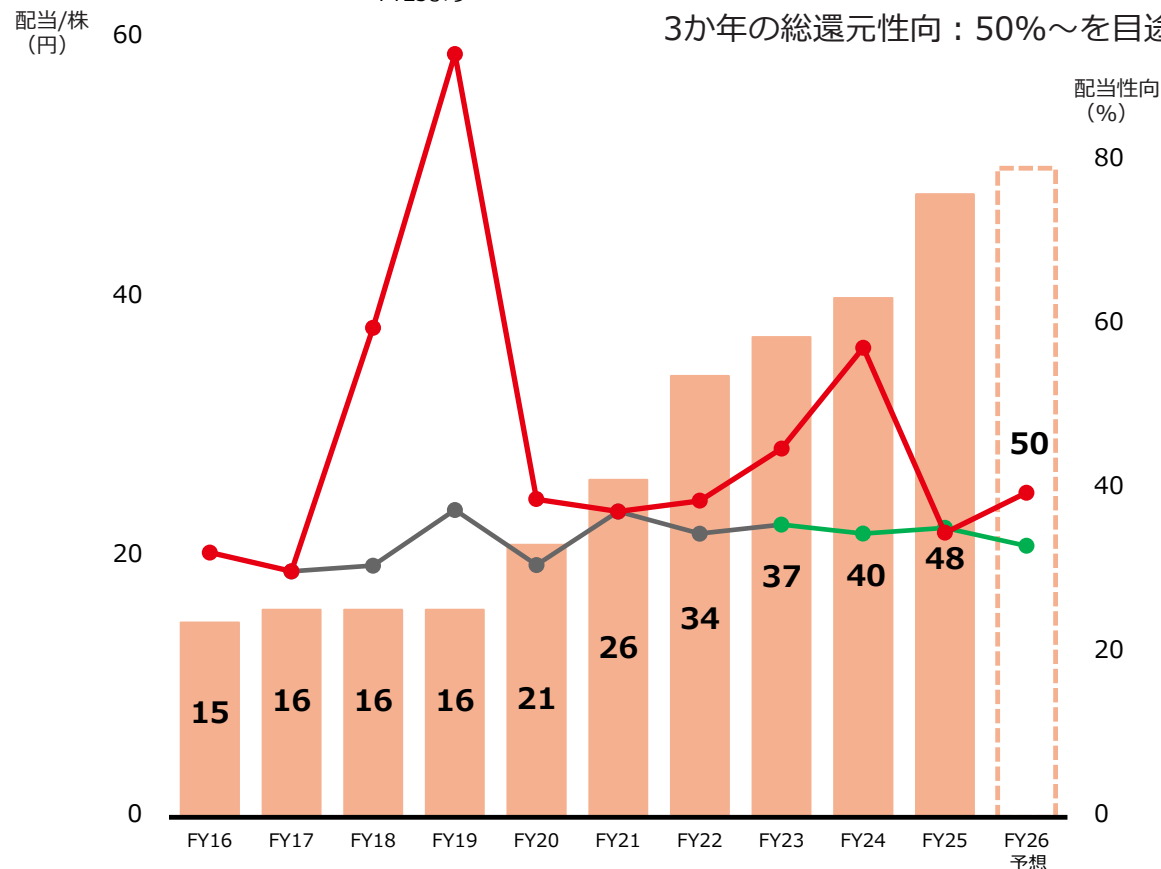
FY26も、累進配当方針にもとづき、増配予定。自己株式取得は、25年11月6日発表の800億円（上限）の買付けを実行中。今後も資本効率向上に向け、株主還元の拡充を図っていく。

■ 配当（FY16-FY26予想）

配当 / 株
 配当性向
 配当性向（除く減損）
 配当性向（ノーマライズ）
 FY23より

■ 株主還元（中期ASV経営の考え方）

累進配当政策を導入
 ノーマライズドEPSに基づく配当*
 3か年の総還元性向：50%～を目途



FY25（実績）

配当 **48円/年（増配予定）**
 対FY24 +8円

自己株式取得

- 2025年5月8日発表(取得終了)
1,000億円、約27.9百万株
・ 発行済株式総数（自己株式除く）に対する割合：2.77%
- 2025年11月6日発表
800億円、30百万株（上限）
・ 取得期間：2025年12月1日～2026年11月30日まで
・ 発行済株式総数（自己株式除く）に対する割合：3.09%

FY26（予想）

配当 **50円/年（増配予定）**
 対FY25 +2円

自己株式取得 上記、2）の買付けを実行中

*ノーマライズドEPS = (事業利益×(1-味の素標準税率27%))
 ÷発行済み株式数×標準還元係数35%

株主優待制度



所有株式数	保有期間	優待内容	
100株以上200株未満	100株以上を継続半年以上(注1)	「味の素グループ製品」 または「寄付」	500円相当
200株以上1,000株未満			2,000円相当
1,000株以上2,000株未満			4,000円相当
2,000株以上	2,000株以上を継続3年以上(注2)		5,000円相当
			8,000円相当

(注1)「100株以上を継続半年以上」とは、株主優待の割当基準日（毎年3月31日）において、株主名簿基準日（3月31日および9月30日）の株主名簿に100株以上の保有記録が同一株主番号で2回以上連続している場合をいいます。

(注2)「2,000株以上を継続3年以上」とは、株主優待の割当基準日（毎年3月31日）において、株主名簿基準日（3月31日および9月30日）の株主名簿に2,000株以上の保有記録（2025年3月31日までの株主名簿においては1,000株以上の保有記録）が同一株主番号で7回以上連続している場合をいいます。

株主優待制度



2026年度株主優待品（一例）



8,000円相当優待品の一例
味の素グループ製品詰め合わせ



WEB限定

今年はアジパンダ®グッズが新登場！

WEB限定で選べる優待品もあります♪



4,000円相当のWEB限定申込優待品の
一例：AGF®ギフト



5,000円相当のWEB限定申込優待品の
一例：冷凍食品詰め合わせ



味の素(株) HP
「株主優待」

※ 写真はイメージです。
※ 詰め合わせの内容・パッケージが
変更となる場合があります。

株主様向けイベント

味の素グループの工場見学や味の素スタジアムなどの施設見学などに参加いただけます。

■工場見学・ネーミングライツ施設見学



工場見学



味の素スタジアム



味の素ナショナルトレーニングセンター

■オンライン新製品説明会



■オンライン決算説明会



IR公式Xアカウントを開設しました

個人投資家・株主の皆さまへの発信を強化するため、IR専用の公式X（旧Twitter）アカウントを新たに開設しました。



味の素社IR【公式】

@ajinomoto_ir

味の素グループの決算・IR情報をタイムリーにお届けするとともに、“知っているようで知らない”新たな魅力もお伝えする、IR活動の公式アカウントです。



QRコードまたは、Xで「@ajinomoto_ir」を検索し、フォローをお願いいたします。



メール配信サービスのご登録もお願いいたします。

決算・主な適時開示情報やニュースリリースなど、当社IR情報をメールで配信。



Eat Well, Live Well.



- アミノサイエンス®(味の素株式会社の登録商標です。